

京都大学土木会研修助成基金 研修報告書

1. 申請者情報

申請年度：令和7年度第1回 研修助成

氏名：鴨志田 遼

所属：地球工学科国際コース

学年：学部3回

派遣先：インドネシア ジャカルタ

期間：2025/8/25~2025/9/8

2. 活動報告

このたび、地球工学科国際コースのカリキュラム一環として、インドネシア・ジャカルタの都市高速鉄道（MRT）建設現場の国際インターンシップに参加した。清水建設のインターン生として、ジャカルタ MRT 南北線二期工事 CP202工区の設計チームに加わった。CP202は南北に約2km延びる区間で、三つの駅とそれらを結ぶシールドトンネルからなる。インターンシップの2週間は、事務所や現場で様々な説明を伺い、設計チームから与えられた課題に取り組んだ。その他に、同じMRTプロジェクトの完成した区間の試乗や、コンクリート工場、隣接するCP201工区、さらには劇場施設の建築現場などの視察に参加した。最終日には建設所長をはじめとするスタッフの方々に向けて成果発表のプレゼンを行った。設計チームと現場の施工チームとの経験を通して、以前から関心のあったシールド工法をはじめ、コストを視野に入れた設計施工の考え方や、トラブルの対応など、大学では扱われづらい実践的な知識を得ることができた。更には、言語の壁がある現場において管理や情報伝達がいかにして行われているか、国の仕様、天候、社会状況がプロジェクトにどう影響を与えるかなど、インドネシアの現場ならではの貴重な知見を得ることができた。ジャカルタ都心部の、交通量の非常に多い道路に挟まれた現場に通うなか、新たな高速地下鉄を建設することが持つ意義を日々実感した。シールドマシンの到達点を伺った際、日本人・インドネシア人双方のスタッフが誇らしげに記念撮影をしている場面が印象的であり、多国籍なスタッフが一体となりプロジェクトに取り組む姿に感銘を受けた。今回のインターンシップは、国際的な土木プロジェクトに対する理解を深めるうえで、かけがえのない学習体験となった。

3. おわりに

このたび国際インターンシップを助成していただいた京都大学土木会の皆さまに、心より感謝申し上げます。



シールドマシン到達点



最南端のハルモニ駅の現場